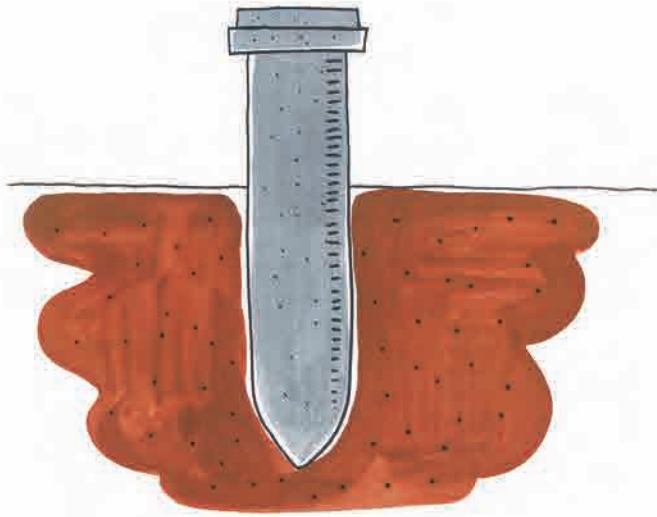


目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (草木編)
- 3 童謡 あめふり
- 4 早口ことば このくいは 引き抜きにくい
- 5 今月の詩 相聞三 芥川龍之介
- 6 たし算 3の段
- 7 ことわざ 窮鼠猫をかむ 子どもは風の子 口は禍のもと
臭い物にふた 苦しいときの神頼み
- 8 かけ算 4の段
- 9 俳句 松尾芭蕉 与謝蕪村 芥川龍之介
- 10 かぞえうた 1通 1組 1帖 (ハガキ、重箱、海苔)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた 茶摘み
- 13 今月のうた 天台宗と真言宗
- 14 四字熟語 質実剛健 心機一転 千客万来
- 15 イメージトレーニング クロス君 (第3話 大きくなったら)
(イメージしてみましよう)
- 16 おはなし わらしべ長者
- 17 漢詩 破山寺の後禅院
- 18 百人一首 参議雅経 儀同三司母 紀友則 和泉式部
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

このくいは ^ひ引き^ぬ抜きにくい



そうもんさん
相聞三

あくたがわりゅうの すけ
芥川龍之介

また^た立ちかえる^{み な づき}水無月の

なげ^{たれ}歎きを誰にかたるべき。

さら^えのみず^{はな}枝に花さけば、

かなし^{ひと}き^め人の目ぞ^み見ゆる。



ことわざ

窮鼠猫をかむ

弱い者でも追いつめられて必死になれば、強い者を破ることがある。



子どもは風の子

子どもは元気なので、寒い風をいとわず、活発に外で遊ぶということ。



口は禍のもと

うっかり言った言葉から失敗を招くことがある。
言葉には十分気をつけなければいけない。



臭い物にふた

他人に知られたくない内部の醜いことや不正を、そっと隠して一時しのぎをすること。



苦しいときの神頼み

ふだん神を拝まない者が、困ったときだけ神や仏に祈って助けを求めること。



俳句

ひとぬいで 後ろにおいぬ 衣がえ

まつお ばしょう
松尾芭蕉



ゆう 夕だちや くさは 草葉をつかむ むらすずめ

よきぶそん
与謝蕪村



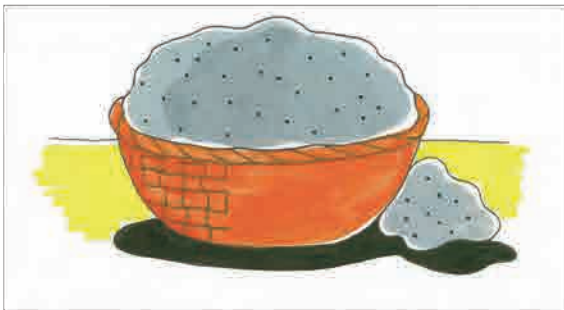
あおがえる 青蛙 おのれもペンキ ぬりたてか

あくたがわりゆうのすけ
芥川龍之介



なぞなぞ

- 1 花^{はな}さかじいさんが、木^きの上^{うえ}にのぼってまくものななに？
- 2 怪我^{けが}をした人^{ひと}が、まくものはなに？
- 3 一回^{いっかい}しかまいていないのに八回^{はっかい}もまいたというものななに？
- 4 寒^{さむ}いとき、首^{くび}にまくものななに？



ちやつ 《茶摘み》

① ぱ (1拍やすみ)



手をぱちんと
あわせる

② な



みぎ手をあわせる

③ つ



④ も



ひだり手をあわせる

⑤ ち



⑥ か



みぎ手

⑦ づ



⑧ く



ひだり手

⑨ はちじゅうはちや

①～⑦ くりかえし

⑩ (トントン)



りょう手を2回あわせる

⑪ のにもやまにも わかばがしげる (トントン)

⑫ あれにみえるは ちやつみじゃないか (トントン)

⑬ あかねだすきに すげのかさ (トントン)

①～⑩ を うたにあわせてくりかえす

今月のうた

《天台宗と真言宗》

へいあんじ だい どう つた あたたら ぶっきょうふた
平安時代に唐から伝わった 新しい仏教二つ

さいちょう でんぎょうだい し
最澄さんは伝教大師

ひ えいざん えんりやく じ た てん だいしゅう つた
比叡山に 延暦寺を建てて 天台宗を伝えたよ

くうかい こう ぼうだい し
空海さんは弘法大師

こう や さん こんごう ぶ じ た しんごんしゅう つた
高野山に 金剛峯寺建てて 真言宗を伝えたよ

へいあんじ だい しんぶっきょう おぼ
平安時代の新仏教 覚えよう



最澄



空海

しつじつごうけん
質実剛健

まじめで心身ともにたくましいこと。



しん きいつてん
心機一転

気持ち^{きもち}を新しく入れかえること。

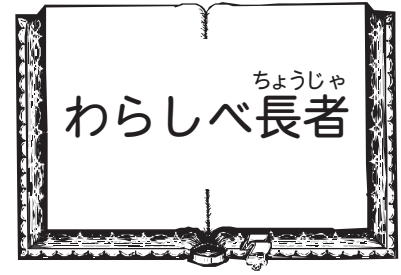


せんきゃくばんらい
千客万来

かわるがわる^{おお}多くの客^{きやく}が訪れること。^{おとず}

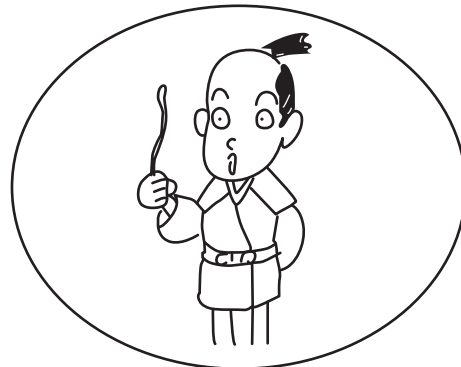
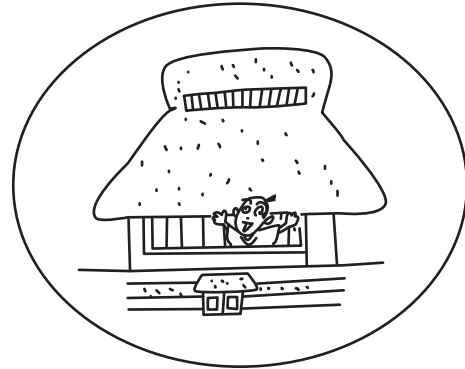


おはなし



「わらしべ長者」は、^{まず}貧しい男が^{ちようじゃ}長者になるまでの^{はなし}お話です。お話を聞いた^{あと}後で、^{しつもん}質問にこたえてみましょう。

- 1 ^{かん}観音様は、^{おとこ}男に^{なん}何と言いましたか。
- 2 ^{おとこ}男の子のお供の^{ひと}人は、^{れい}お礼に^{なに}何をくれましたか。
- 3 ^{たん}反物^{もの}三反と、^{なん}何をかえましたか。
- 4 ^や屋敷と^{しき}田んぼを^た貸してくれた^{ひと}人は、もし^じ自分が^{ぶん}戻らな^{もど}かったら^{なん}みんな^{ねん}あげると言いましたが、それは^{なん}何年^{ねん}たったら^いででしょうか。
- 5 ^{おとこ}男の^{ひと}人は、^{けつきよく}結局^いどうなりましたか。



惟^ただ鐘^{しょう}磬^{けい}の^{こえ}声^{こえ}を^き聞^きく^のの^みみ
 万^{ばん}籟^{さい}此^こに^{とも}俱^{とも}に^{せき}寂^{せき}たり^す
 潭^{たん}影^{えい}人^{じん}心^{しん}を^{むな}空^{くう}しく^す
 山^{さん}光^{こう}鳥^{ちよう}性^{せい}を^{よろこ}悦^{よろこ}ば^ししめ^め
 禅^{ぜん}房^{ぼう}花^か木^{ぼく}深^{ふか}し^じ
 曲^{きよく}径^{けい}幽^{ゆう}処^{しよ}に^{つう}通^{つう}じ^じ
 初^{しよ}日^{じつ}高^{こう}林^{りん}を^て照^てら^らす^す
 清^{せい}晨^{しん}古^こ寺^じに^い入^いれ^れば^ば

破^は山^{ざん}寺^じの^こ後^{こう}禅^{ぜん}院^{いん}

常^{じよう}

建^{けん}

百人一首

み吉野の
山の秋風さ夜更けて
ふるさと寒く衣打つなり

忘れじの
行く末までは
今日を限りの
命ともがな

ひさかたの
光のどけき
しづ心なく
春の日に
花の散るらむ

あらざらむん
この世のほかの
今一度の逢ふ
思ひ出に
こともがな

(参議雅経)

(儀同三司母)

(紀友則)

(和泉式部)



儀同三司母